

夏山の遭難防止 ～山登り体力・技量を考えて～

山の雪解けとともに、登山やハイキングなどで山に出かける機会が多くなります。山岳遭難を未然に防ぐため、次の点に注意しましょう。



- 登山は十分な装備とゆとりある計画を立て、自分の体力や技量にあった登山を心がけましょう。
- 登山計画書を作成し、家族や職場のほか最寄りの警察署や交番・駐在所にも提出しましょう。
- 経験のあるリーダーのもと、複数人での登山に努め、単独での登山は控えましょう。
- ヒグマとの遭遇を避けるため、音の出るものを携行しましょう。
- 万が一のために、携帯電話などの通信手段を携行しましょう。

◆問合せ 余市警察署 ☎21-0110

「緊急地震速報」を見聞きしたら、まず身の安全を！」

地震がおそろしいといわれる理由の一つに、何の前触れもなく、突然、大地が揺れだすということがあげられます。例えば数秒程度のわずかな時間であっても、大きく揺れる前にそのことを知って、事前に身構えるなどの対応を取ることができれば、自らの命を守ることが出来るかもしれません。これを可能にするのが、気象庁が発表する「緊急地震速報」です。

「緊急地震速報」は、震源に近い観測点で地震を検知し、震源の位置や地震の規模（マグニチュード）、各地の震度などを瞬時に推定して、大きな揺れが迫っていることをお知らせする情報です。この情報を聞いて、大きな揺れが始まる前に危険回避行動を取ることができれば、地震被害の軽減が期待できます。

しかし、緊急地震速報が発表されてから大きな揺れが始まるまでの時間は長い場合でも数十秒程度であり、①震源に近いところでは、情報の提供が大きな揺れに間に合わない場合がある、②震源やマグニチュードの推定、および震度予測には誤差を伴う、などの技術的な限界があります。

このため、緊急地震速報を有効に活用し、身の安全を図っていただくためには、情報を受けたときにどのように行動すれば良いかという「緊急地震速報の利用の心得」を理解していただくことが重要です。

【緊急地震速報を見聞きした時の行動の具体例】

「周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する」

① 家庭にいるとき

- 頭を保護し、丈夫な机の下など、安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- その場で火を消せる場合は火の始末をし、火元から離れている場合は揺れがおさまってから消火する
- 扉を開けて避難路を確保する



② 人が大勢いる施設では

- 施設の従業員等の指示に従う
- その場で、頭を保護し、揺れに備えて身構える
- あわてて出口、階段などに殺到しない

③ 屋外にいるとき

- ブロック塀の倒壊、看板や割れたガラスの落下に注意する

④ 乗り物で移動中

- 自動車運転中は、急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度を落とす
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす
- 鉄道・バスに乗車中は、つり革、手すりなどにしっかりつかまる
- エレベーター利用中は、最寄りの階で停止させ、速やかにエレベーターから降りる



なお、緊急地震速報の詳細などについては、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/>) をご覧ください。

◆問合せ 札幌管区気象台地震火山課 ☎011-611-6125